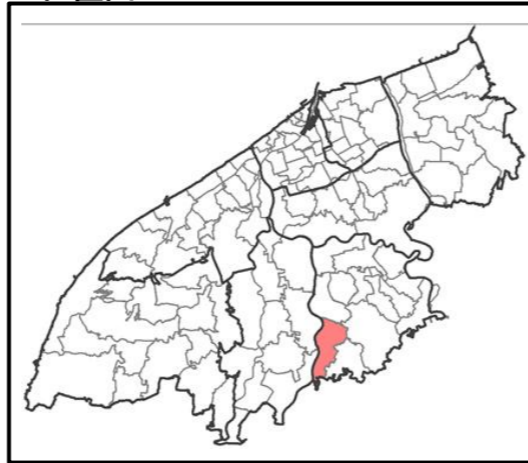


様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

●住所名称

小須戸		
小向		
新保		
水田		
横川浜		
竜玄		

●位置図

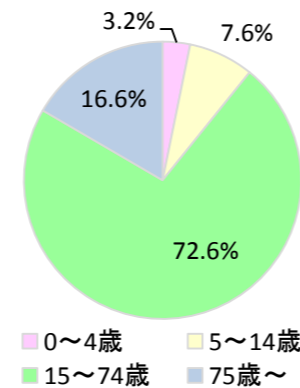


●施設・団体

市役所・区役所等	小須戸出張所	
警察・消防	小須戸交番／秋葉消防署小須戸出張所	
消防団	秋葉方面隊 小須戸第1分団・小須戸第2分団・小須戸第4分団	
水防倉庫	小須戸	
一時避難場所	小須戸児童遊園、中間木公園、新保農村公園、横川浜農村公園、横水児童遊園、水田農村公園	
広域避難場所	—	
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・保育園	小須戸幼稚園／小須戸保育園
	高齢者福祉施設	—
	障がい者福祉施設	ワークセンターほほえみ

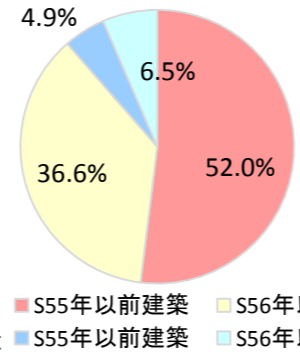
●人口

総人口	5,591人	地区の割合	市の割合
0～4歳	179人	3.2%	4.0%
5～14歳	425人	7.6%	8.5%
15～74歳	4,059人	72.6%	74.6%
75歳～	928人	16.6%	12.9%
65歳以上人口	1,711人	30.6%	26.0%
世帯数	1,871世帯		
一世帯あたり人口	3.0人／世帯		2.5人／世帯
人口密度	656人／km ²		1,108人／km ²
昼間人口	4,472人	夜間の80.0%	



●建物関連指標

総棟数	3,553棟	地区の割合	市の割合	
木造	S55年以前建築	1,846棟	52.0%	44.2%
	S56年以降建築	1,301棟	36.6%	46.7%
	計	3,147棟	88.6%	90.9%
非木造	S55年以前建築	176棟	4.9%	3.4%
	S56年以降建築	230棟	6.5%	5.7%
	計	406棟	11.4%	9.1%
S56年以降建築物	1,531棟	43.1%	52.4%	



S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。

●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]小須戸小学校	4.6	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]小須戸中学校	4.2	4	○	—	2階以上	—
[ヒ]小須戸体育館	4.2	1	○	—	×	—
[ヒ]小須戸幼稚園	4.5	1	○	—	×	—
[ヒ]小須戸武道館	4.3	1	○	—	×	—
[ヒ]小須戸まちづくりセンター	3.6	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]小須戸保育園	4.2	1	○	—	×	—
[ヒ]新保地域研修センター	4.1	1	○	—	×	—
[ヒ]小須戸老人福祉センター	5.5	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]ワークセンターほほえみ	4.7	1	○	—	×	—

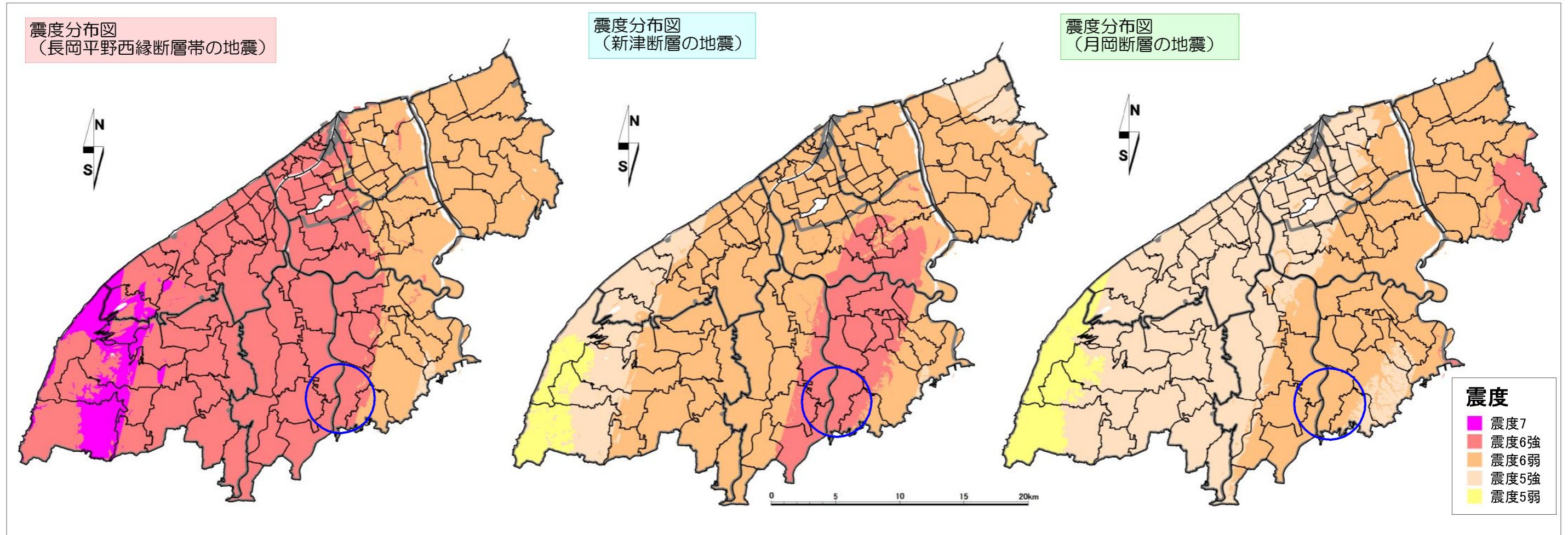
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]矢代田小学校	11.6	4	○	—	全階可	○
[ヒ]小須戸地区ふれあい会館	10.8	1	○	—	全階可	○
[ヒ]矢代田保育園	3.5	1	○	—	×	○
[ヒ]小須戸温泉健康センター	15.8	2	○	—	全階可	×
[ヒ]鎌倉地域研修センター	7.1	1	○	—	全階可	○

避難の可否(災害ごとに表記):開設する施設を「○」、避難可能な階数を「○」、開設しない施設を「—」、避難に適さない施設を「×」

●災害危険性の評価

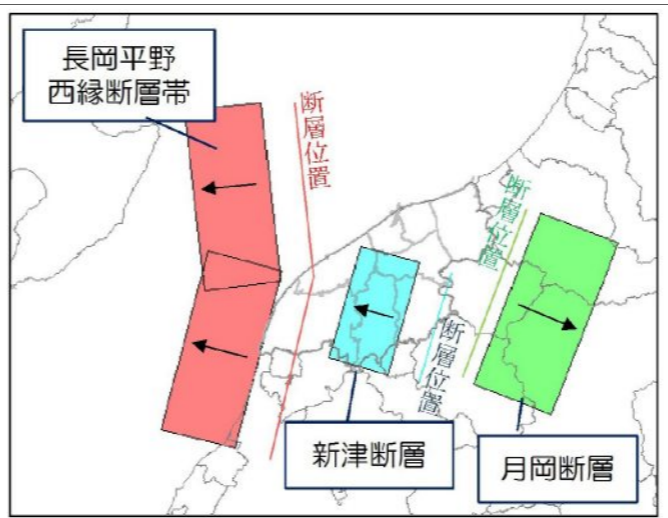
地震・津波	地区の大部分に軟らかい地盤が分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性はある。 津波の浸水は想定されていない。
水害・土砂	信濃川下流の洪水及び五社川の洪水によって、浸水の可能性はある。特に、信濃川下流の洪水では、広い範囲で浸水の可能性はある。



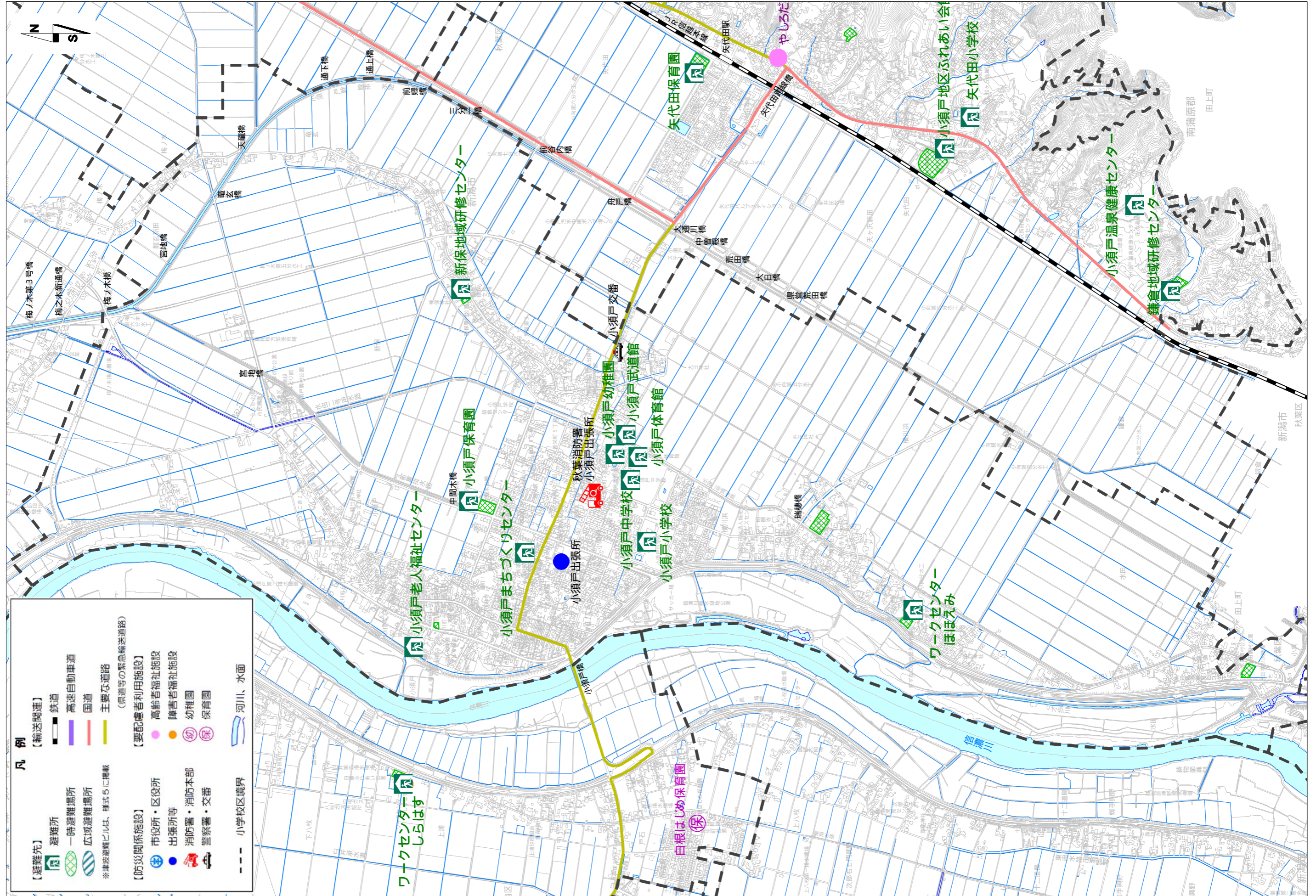
	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。
 【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】
 過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>
 モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。

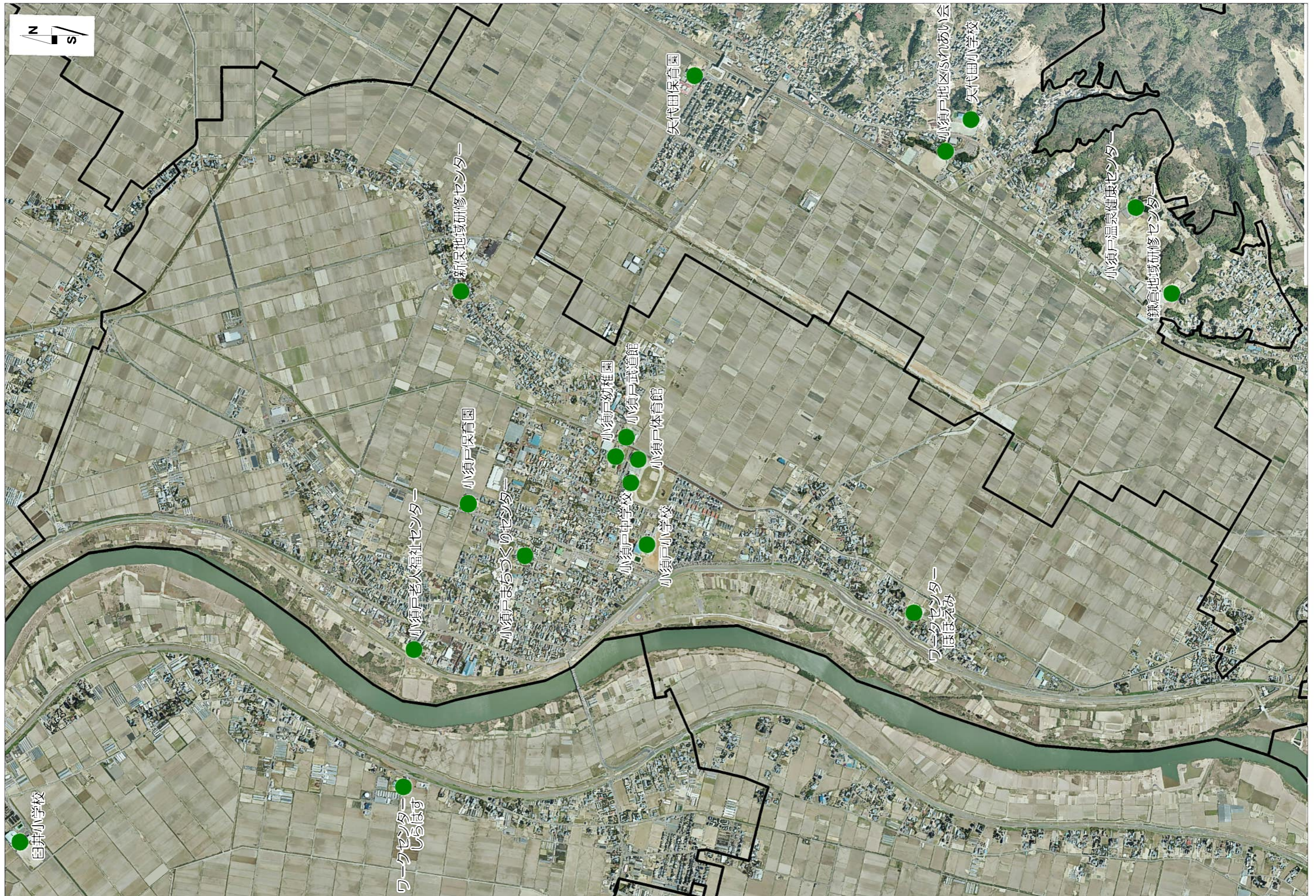


← は、断層の傾きを示しています。

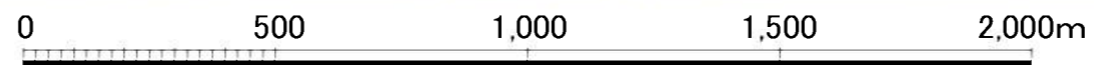


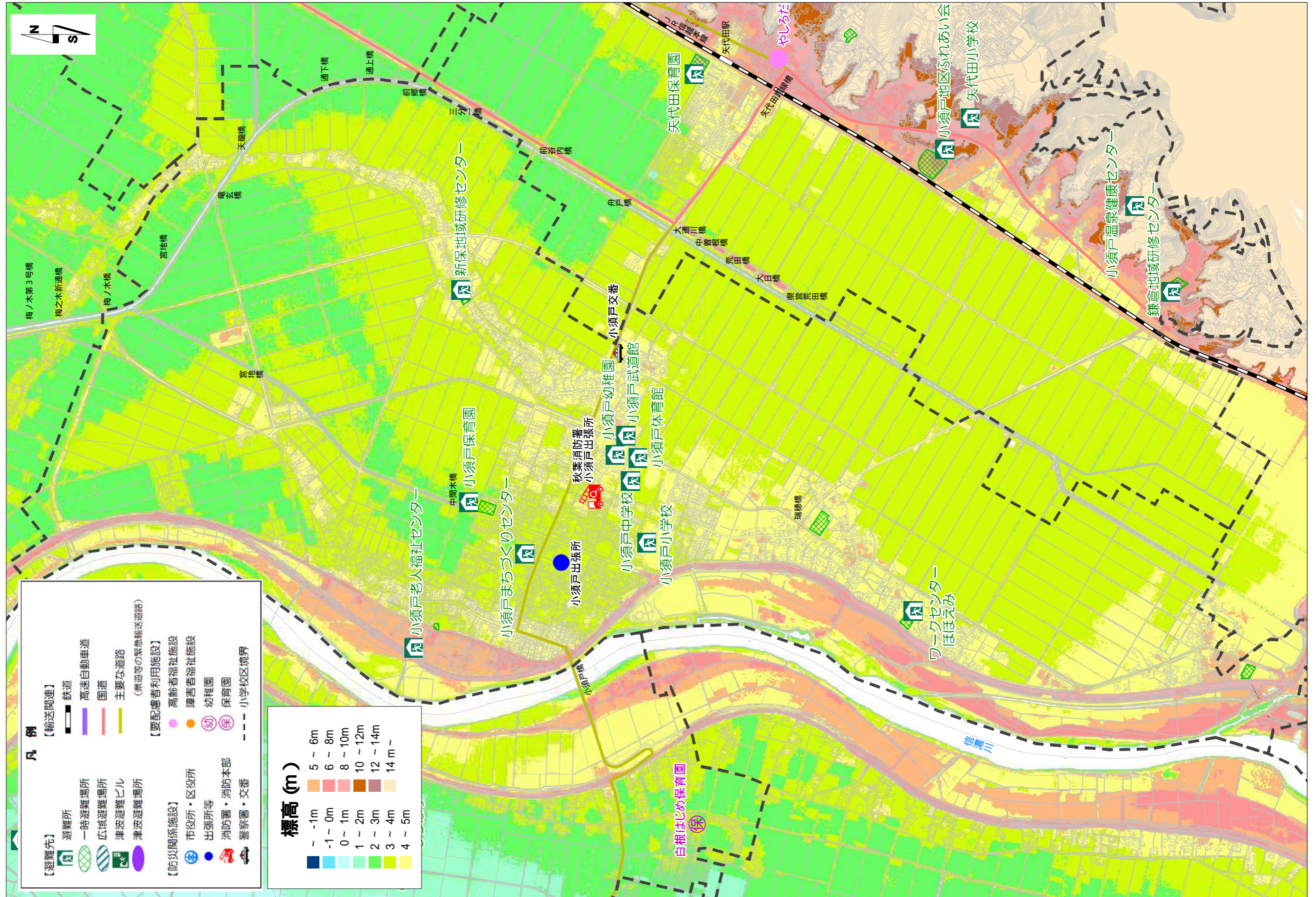
【出典】 棋盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)

0 500 1,000 1,500 2,000m

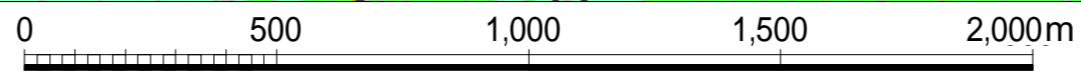


〔出典〕 航空写真(平成26年4月)



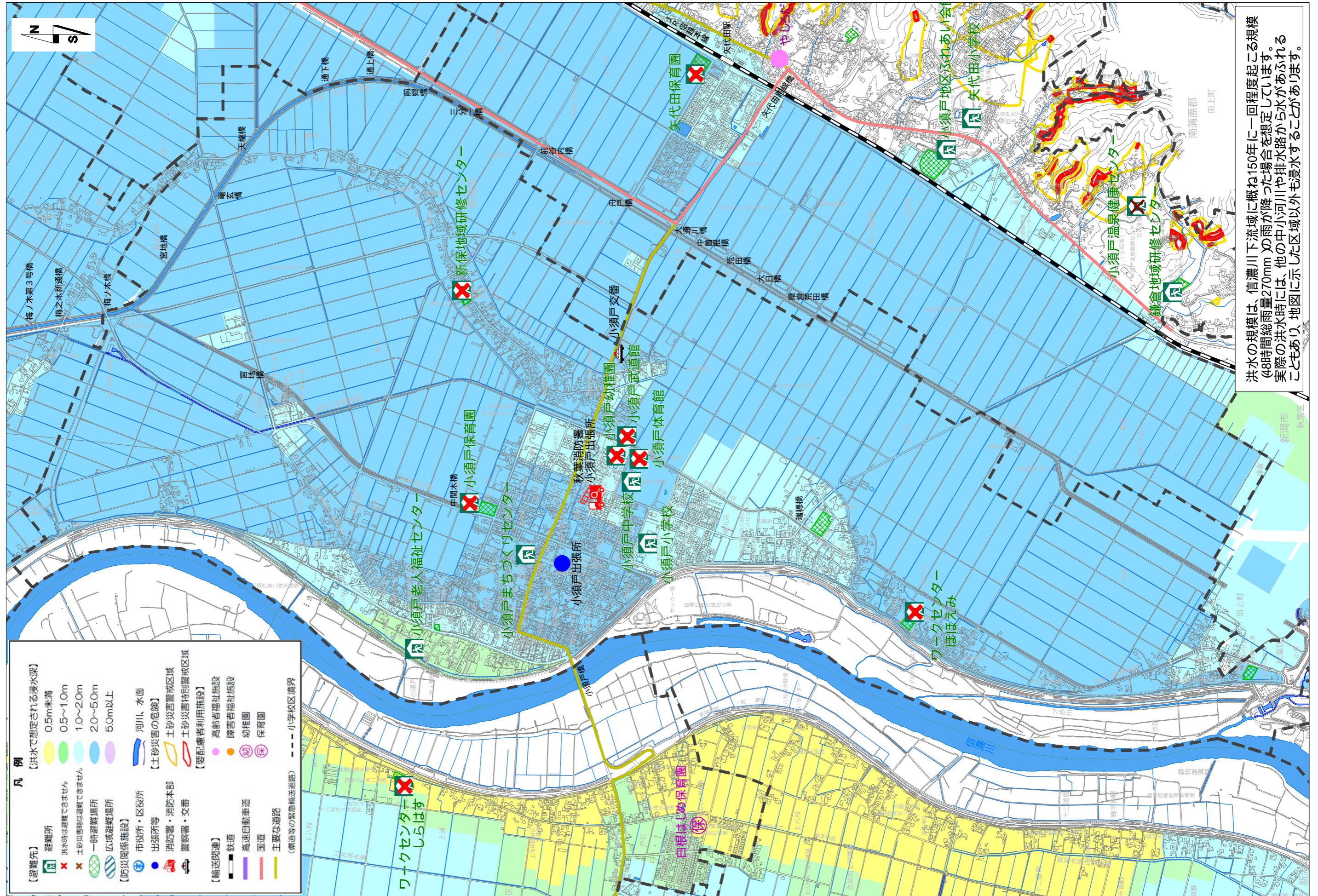


【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



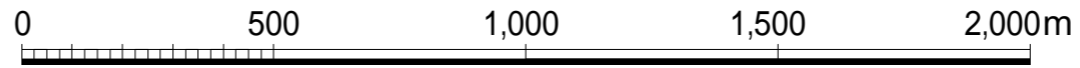
様式6-1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）

小須戸小学校区



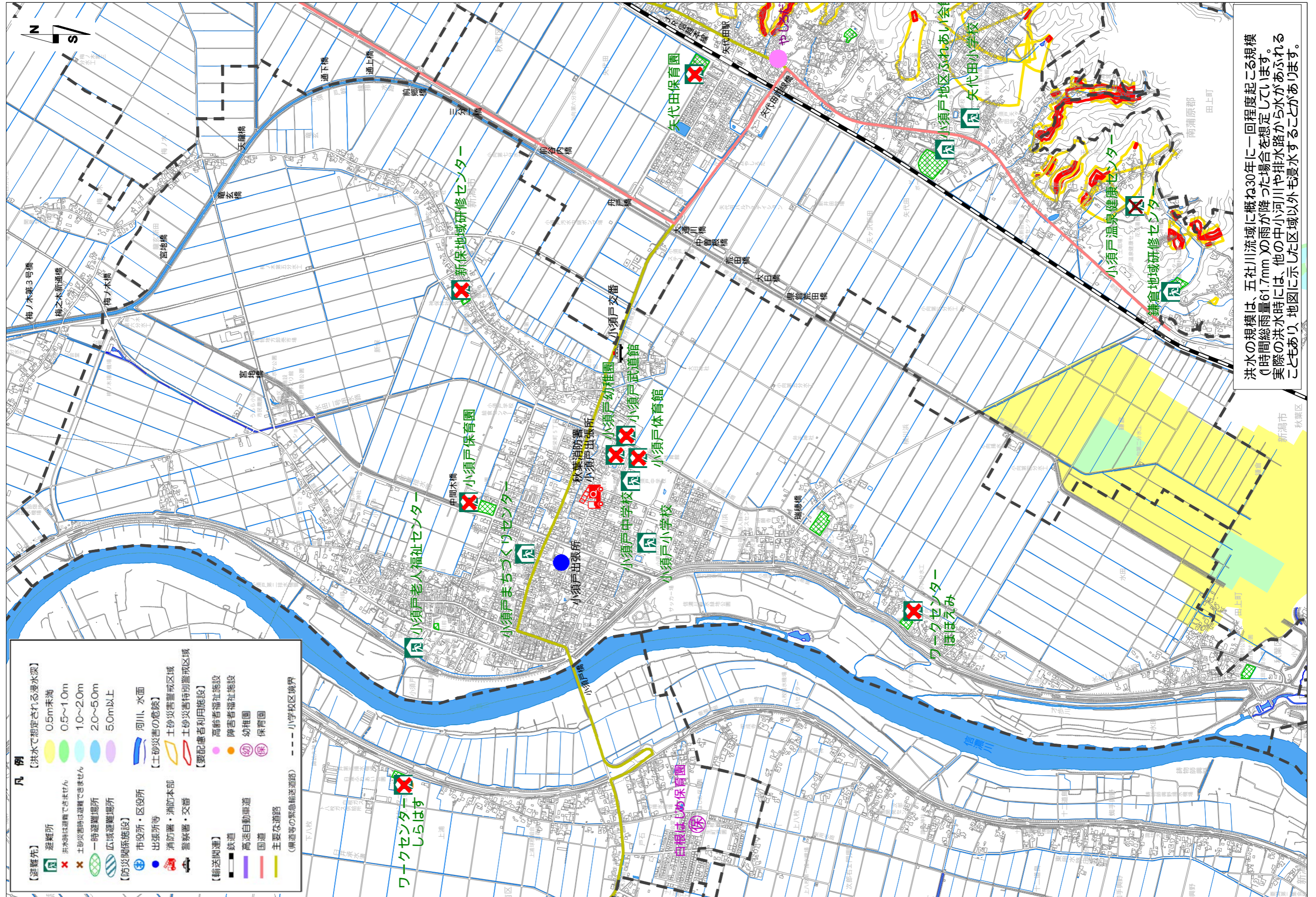
洪水の規模は、信濃川下流域に概ね150年に一回程度起こる規模（48時間総雨量270mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
 信濃川下流浸水想定区域（国土交通省，平成14年4月30日）



様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（五社川）

小須戸小学校区



洪水の規模は、五社川流域に概ね30年に一回程度起こる規模（1時間総雨量61.7mm）の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水があふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図（平成20年，平成25年，平成26年）
五社川浸水想定区域（新潟県，平成21年8月21日）

